

宝塚ちどりで定期的に清掃活動をして下さっている「宝塚さざんかの家」。当施設とのつながりや、「さざんかの家」の活動内容についてご寄稿いただきました。

宝塚ちどりの清掃作業

社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会
宝塚さざんかの家 脇田 幸治様

毎年五月・八月・十一月の年三回、宝塚ちどりの清掃をさせて頂いています。作業時間は午前十時〜午後三時(正午から一時間の休憩)で、人数は利用者六名と支援員二名の計八名で構成しており、作業場所は本館屋上・二階屋上・外周・玄関周辺・グループホーム外周・屋上の六ヶ所を除草・清掃をしています。
清掃内容は、支援員は草刈り機で草を刈り、利



用者は刈った草を集めて、ズタ袋に入れる。鎌や手で草を抜くなど、積極的に取り組んでいます。五月、十一月はまだ気温が高くない作業しやすい時期なのですが、八月は暑い中一生懸命取り組んでいます。休憩時間には冷たいお茶やポカリスエットなどを飲んで話をしながらゆっくりと過ごしています。清掃作業は大変ですが利用者にとって将来、経験が力になると思います。「きれいにしてくれてありがとう」とお言葉を頂いた時は、大変うれしかったです。今後ともよろしく願います。

◇「宝塚さざんかの家」概要

宝塚さざんかの家は、主に知的な障がいを持つ方が利用されている事業所です。昭和五十三年に宝塚さざんか福祉会が立ち上がり、法人で一番最初の事業所として宝塚さざんか

の家が出来ました。事業所の名前の由来は、寒い季節に耐えて、滑らかに美しく、よい香りをただよわせながら咲く「さざんかの花」。宝塚市の市木でもあり、市民に広く親しまれたいとの願いも込められています。宝塚さざんかの家ではあなたの思いを形にしよう。あなたの自立を共に考えます。あなたらしく健やかに暮らすこと、働くこと、生き生きとした生活をすることを大切にしています。

現在、当事業所では、四十四名の利用者が毎日、作業や余暇活動に取り組んでいます。



宝塚さざんかの家での活動

宝塚さざんかの家ではフロアを一階・二階・別館と三つに分けそれぞれのフロアで作業を行っています。一階と別館では主に「折箱」という作業に取り組んでいます。また利

用者のスキルに合わせ、生活に密着した自立課題に取り組みだりもしています。

二階は自閉症（自閉症は生まれつきの脳の障害です。人と関わるのが難しいのが特徴ですが、ひきこもりや対人恐怖症・内気な性格・情緒障害とは異なります）の方も多く「TEACCHプログラム（自閉症の人たちへの包括的な対応と教育プログラム）」を使って作業や自立課題に取り組みんでいます。作業は百円均一などで売っているハブラシセツトの梱包など取り組み、これもいくつかある作業工程を分けてそれぞれ取り組んでいます。

また全フロアで取り組んでいる作業としては「空き缶プレス作業」もありま



す。このように日々障がいを持った方々が一生懸命仕事に励まれています。

「ご寄稿ありがとうございます。ごさいました。宝塚さんかの家」様は四月より

当法人が指定を受けました宝塚市立養護老人ホーム「福寿荘」の隣にあり、お互いに協力していけたらと思っています。今後とも宜しくお願

いします。
(森本)

◆ユニット報告

ふじが丘・すみれが丘ユニット

六月下旬、七夕に向けて、ユニットのリビングに飾り付けを行いました。お願いごとを考えておられる姿は真剣で「若返りますように」「アイスクリームが食べたい」「おいしいものをいっぱい食べたい」と短冊に書いておられました。また、折り紙を使用して、ちょうちんや鶴、お星様を職員と一緒に一生懸命に作っておられました。飾り付けの時は「もっと上に付けたほうがいいよ！お願い事が空に届きやすいからね」と職員にアドバ



イスをしてくださる

姿もみられました。飾り付けを終えた時には「すごいねえ」「キレイだね」と嬉しそうに話をしておられました。皆様の協力のもと、すばらしい笹飾りができあがりしました。皆様の願いが叶いますように！（目加田）

武庫川・仁川ユニット

仁川・武庫川ユニットでは、ご利用者に少しでも毎日楽しく過ごしていただきたいと考え、ユニット内でレクリエーションとして歌を歌い、リハビリ体操やことわざクイズなどをしています。午後の少し落ち着いた時間に集まり、職員と一緒に歌を歌い、クイズで頭の体操をしたり、CDにあわせてリハビリ体操をして体を動かしています。毎回最後にご利用者のリクエストに添えて、歌を歌って終わります。シートステイをご利用されている方も「歌が始まったら呼びに来てね」と言われ、楽しみにしてくださっています。（都崎）



委員会報告

サービス向上委員会

六月の会議では、グラッドグッド報告書について話し合いました。職員が他の職員又は自分の様々な対応の中で、良いと感じた項目を互いに報告しあっていくのを目的とした報告書です。これを実施していく中で職員各々の仕事への熱意がさらに高まっていけばと思います。

また、九月にはカラオケ喫茶を行う予定です。二部制となっているので、できるだけ多くの利用者に参加して頂けるよう取り組んでいきます。

(吉田)



給食委員会

ユニットで炊飯を開始して、早くも一か月が経ちました。それにもない「見えてきた課題は何か」「利用者にとって変わったものとは何か」を、今後も継続して討議していきたいと思えます。

七月七日は短冊風のお品がぎと共に夏らしく涼しげな「七夕そうめん」をお出ししました。各階には皆さんの願いがたくさん詰まった笹が飾られ、梅雨のさなかではありましたが、今年は運良く天候にも恵まれ、久々に天の川を見ることができました。

八月には出張おやつレクレーション予定しています。揚げたてのドーナツ、たこ焼き、パフェなどユニット毎のリクエストに合わせたおやつを提供します。

また、現在食事アンケート調査を実施中です。この結果をもとに、更なる食事の質の向上に努めて行きます。(中村)



研修委員会

六月から、研修委員会の委員長に任命されました、尾崎馨一郎(けいいちろう)と申します。私は現在、特養の「ふじが丘・すみれが丘」ユニットにて、リーダーをさせて頂いています。これから頑張っていきたいと思いますので、宜しくお願い致します。

六月十二日の委員会にて、今後の研修計画について協議しました。

八月には、食事介助研修や、感染症研修(口腔ケアを主とした研修内容)を実施する予定です。その後は、事故防止研修を実施予定です。

これからもご利用者やご家族に、高品質のサービスの提供ができるように、知識・技術の向上を図れるような研修を行っていききたいと思えます。(尾崎)



感染症委員会

口腔ケアについて、どのような内容の研修を受けたいかを協議しました。また食中毒について予防の注意点を伝達しました。(中村)

事故防止委員会

前回の委員会から今回の委員会までに起こった事故をユニット毎に報

告し、その中でも職員を意識を改善することによって防げる事故について、「何故起こるのか」「改善策は何か」を話し合いました。

「大丈夫」という思い込みが事故に繋がるため、危険予知トレーニングをはじめ、職員の意識が低下しないように事故防止委員会で今後も働きかけていきたいと思えます。

(伊波)

赤ちゃんとふれあう

六月二十一日、初めての企画として、宝塚ちどりのコミュニティルームに四組の赤ちゃんと



やお母さんがやってきました。NPO法人「ママの働き方応援隊」が取り組んでいる『赤ちゃん先生プロジェクト』のテストラスという形でご利用者と赤ちゃんとのふれあいが実現しました。

コミュニティルームには十五名のご利用者が赤ちゃんをお待ちかね。お母さんに抱きかかえられた赤ちゃんたちが登場すると、今までに見たことがないくらいにニッコリ顔で

「おいで、おいで〜」「かわいいね〜」と、あっという間に部屋の空気が変わりました。少し驚いて泣いてしまいう赤ちゃんもいましたが、ご利用者の方々はそんな赤ちゃんの様子も、目を細めて見ておられました。

ある女性のご利用者は赤ちゃんのお母さんたちにご自身の子育ての思い出を話され、昔の事を思い出されているようでした。あっという間に赤ちゃんたちとの楽しい時間は過ぎてしまい、お別れの時は少し寂しい様子でしたが、「また、きてねー」とそれぞれ声をかけておられました。

次の開催日は未定ですが、次に会う時は赤ちゃんがどれだけ成長しているのか、すごく楽しみです。



中山ちどりと合同で

「安全運転研修」を実施

六月二十四日、宝塚ちどりで通勤や業務で運転を行う職員を対象に実施しました。実際にリフト車で車いすに参加者が座り、揺れや視界を体験し、快適に乗っていたただくにはどのような運転を心がけなければならないかを確認しました。

(森本)



職員の紹介

七月一日より機能訓練指導員として尾崎浩子さん(理学療法士)が入職しました。現在、各ユニットをまわりながら、ご利用者個々の状況の把握に努めています。今後ともよろしくお願ひします。

(岸本)

編集後記

暑い日が続いておりますが、水分補給をしっかりと行い、熱中症にならないよう気を付けましょう。(鍛冶)

